



interview

MIKIJIRO HIRA / RINA UCHIYAMA

文＝岩城京子（フリーライター）

最後の勝負と感じる中で、 今表現したい“無のリア”

平 幹二郎

リアを演じるのはこれで3度目になります。この役は年をとればとるほどよくなる部分もありますが、どうしても体力的なリミットというものがある。ですから今回それがパスできるかどうか。蜷川さんは過剰な方ですから（笑）、「嵐の場面」などはそうとう激しい演出をなさるでしょうし、私も強さで売ってきた部分があるので「少し抑えてよ」とは言いにくい。今回が体力的にはぎりぎりのところでの、最後の勝負になると思います。

今回、再びリアを演じることで僕はシェイクスピアの四大悲劇をすべて3回演じたことになります。しかしなぜ僕は、これほど激しい悲劇ばかりに惹かれるのか…。実際に演じているとき

は息も絶え絶えで「どうしてこんな死ぬ思いまでして演じなければいけないんだ」と思うようなこともあるんですよ。ですけどしばらく経つと、ふとまた同じ刺激が欲しいと思いはじめちゃう。またそうした舞台で勝負がしたくなるんです。ですからまあ、これはもう一種の症候群なんでしょう（笑）。

失う虚しさを噛みしめて

リアはもちろん「老い」の問題を扱った芝居であり、普遍的な「親子」の問題を扱った芝居であり、これ以上ない究極の悲

劇です。ですが僕のなかでは今回、様々なものごとを「失っていく」というテーマに焦点を定めて進んでいきたいという想いがあります。それは別に失ったことをセンチメンタルに嘆き悲しむ芝居を見せたい、というわけではありません。そうではなく、失ったことを自覚して、その虚しさを噛みしめて、結局行きつくところは“無”であるという。そんな表現に達したい。もちろん演出的には無で終わってしまえば、あまりにデスベレート（絶望的）なので、次世代に光明が見つかるという終幕に辿り着くとは思いますが。リア個人に関しては、無の底に到着して終わりたいんです。

人生の果てに辿りつく“無”

以前2度演じたときは、やはりまだ少し若かったんですね。5年前と10年前ですが、どちらかというリアが行きつくところに怒りや恨みや哀しみがあつた。しかもその哀しみも、自己憐憫。自分は可哀想だなあと。そういう甘いところがまだ少しあつた。でも今回はあまりそうした哀しさを表に出したくない。

共感を覚える コーディリアの“硬質感”

内山理名

コーディリアという女の子は世間の世慣れた大人たちからすると「強情な性格の持ち主」だと判断されがち。ですけど私には逆にその強情さが、かわいさや純粋さや無邪気さに思える。普通の大人だったら言葉遣いだったり、話し方の順序だったり、相手にどう受け止められるかだったり、そういったことをまず計算してから言葉を口にしますが、コーディリアはあまりにも無邪気で怖いもの知らずだからこそ、唐突に要点だけをパッとやってしまう。だから父親に私のことをどれほど愛しているか語ってくれと言われたときにも「何もない」と、いきなり言ってしまう（笑）。確かにこれは決して器用な生き方ではありません。だけど私にはそんなコーディリアの無邪気さが、とても愛らしく思えるんです。それにどんなに無器用な生き方であれ、自分の信じたこと

自己憐憫さえなくして、無のどん底で死んでいきたいんです。僕自身生きて来たことには満足していますけれど、やはり長い人生の果てに行き着いたところは……。無という感じがすごくするんです。ですから今は「無のリア」にとっても惹かれている。でも実は個人的には、その無の先にある光にまで辿り着く『テンペスト』が一番シェイクスピアのなかでは好きな作品なんです。ですからこのリアを無事終えられたら、また『テンペスト』をやりたいかなって思っていますね。

平 幹二郎（ひら みきじろう）

1933年広島県出身。俳優座では千田是也氏に師事。退団を機に浅利慶太演出の『ハムレット』に出演、新境地を開く。その後『王女メディア』『近松心中物語』等蜷川幸雄演出の作品にも多く出演、海外でも高い評価を得た。その後病を経て約10年後、蜷川氏と再会『王女メディア』『テンペスト』等の再演、新作『グリークス』など氏とのコンビが復活。一方、自らが主催する「幹の会」でシェイクスピア全作品の上演をライフワークとし、現在10作品目を数える。



を死ぬまで貫き通すなんて、むしろかっこいいとさえ思えます。ですから私個人としては彼女の生き方が、わりと嫌いじゃないんですよ。

内山理名（うちやま りな）

1981年神奈川県出身。98年、フジテレビ『美少女H』で女優デビュー。その後、TVドラマ『すずらん』『ハンドク!!!』など多くの話題作に出演。『大奥〜華の乱〜』『嫌われ松子の一生』、映画『サトラレ』『卒業』『深紅』、2007年テレビドラマ『生徒諸君!』などに主演。07年秋テレビ朝日系松本清張ドラマスペシャル『点と線』鳥飼つや子役出演。06年度エランドール新人賞受賞。
<http://www.uchiyama.net/>



●●●●● PLAY ●●●●●

彩の国シェイクスピア・シリーズ第19弾『リア王』

【日時】2008年1月19日（土）～2月5日（火）全18公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W.シェイクスピア 【翻訳】松岡和子

【出演】平 幹二郎／内山理名 とよた真帆 銀粉蝶
池内博之 高橋 洋 瀧野俊太 山崎 一／吉田鋼太郎 碓川哲朗 ほか

【チケット（税込）】好評発売中

一般：S席10,000円／A席7,000円／B席5,000円／学生席2,000円

メンバーズ：S席9,000円／A席6,300円／B席4,500円

【稽古場見学会】2008年1月12日（土）13:00～予定 【プレトーク】2008年1月22日（火）河合祥一郎氏によるプレトークあり 【バックステージ・ツアー】2008年1月23日（水）公演終了後
【アフター・トーク】2008年1月31日（木）公演終了後出演者によるトークあり（talk・talk・talk 第10回） 詳細は財団ホームページにて <http://www.saf.or.jp/>

2008年1月	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2月	1	2	3	4	5
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
12:00								●								●			
13:00		●			●	●			●			●	●				●	●	●
18:00	●		休演					●		休演			●			●			
18:30				●			●				●				●				